

教員・保育士の養成に係る教育の質の向上に関する取り組み

本学の教員・保育士養成教育の質を向上させるために、人間健康学部人間健康学科の中高教職課程委員会と、教育学部子ども発達学科の幼小保課程委員会で年間の計画と運営を審議した上で、教職支援センターとも連携しながら、以下のように4つの取り組みを展開している。

1. 「教職実践演習」の取り組み

「教職実践演習」は教員養成・免許制度の一層の充実を提起した中央教育審議会答申「今後の教員養成・免許制度の在り方について」（2006年7月11日）のなかで、その開設が要望されたもので、2013年度より教職課程の新必修科目として開始された。この新しい演習科目の目標は、①4年間の教職課程を総括する、②理論と実践を総合的に把握する、③大学と教育現場の協働体制を推進する、の三つである。そこで本学では中高と幼小の教職課程ごとに、以下のように取り組んでいる。

〔中高教職課程〕

目標①②③の事項を達成するために、履修カルテを基にこれまでの教職課程の学修の振り返りを行い、現職教員であるゲストスピーカーの講話・質疑応答、学習指導案・学級経営案の作成、模擬授業、学校現場の見学・調査、事例研究、役割演技（ロールプレイング）を行う等の体験的な学習や集団討議を行っている。これらの取り組みを通じて、学校現場が抱える諸課題やその対応策、特に児童生徒への対応について、理解を深めることができている。特に、ゲストスピーカーは卒業生を招聘していることから、学生にとって身近な視点を持った現職教員からの講話を聴くことになり、近い将来の姿をより明確にすることに役だっている。授業内容については受講生から、今後活かせる充実した内容であると好評である。

〔幼小教職課程〕

幼稚園と小学校での教職経験が豊かな専任教員2名と、教職を総合的な視点から展望する教職専門研究の専任教員1名の計3名で担当する充実した指導体制である。班ごとの討議による4年間のまとめとなるテーマ設定と、プレゼンテーション資料作成による全体発表をおこなった後、幼稚園志望と小学校志望が班に分かれて指導案作成と模擬授業をおこなうという実践力に結びつくアクティブラーニング法を活用している。受講生からはグループワーク中心で、楽しみながら理論と実践の能力をさらに高めることができると好評である。

2. 学校ボランティアの取り組み

〔中高教職課程〕

名古屋市内の公立中学校において、部活動外部指導者や運営サポーターとして学生が大学の授業外でボランティア活動ができるよう支援している。このような取り組みは、学生が生徒の理解を深める機会となり、さらに、生徒の主体的な学びを引き出す指導法を実践的に学ぶ場となる。さらに、社会的マナーを身につけ、コミュニケーション能力を向上させる貴重な経験の場となり、将来の教員として役立つものである。

3. 「サービス・ラーニング実習」の取り組み

〔幼小教職課程〕

子ども発達学科では、2014年に小学校教員養成課程を新たに導入したことを契機に、本学が位置する名古屋市名東区内の小学校・幼稚園などでの奉仕活動を通じた経験学習を取り入れた。2年間の試行が学生にも学校・園側にも好評をいただいたこともあり、2016年度からは1年生対象の選択科目「サービス・ラーニング実習」として授業化・単位化に踏み切った。従来の学校ボランティアの学習的側面を強調したのが「サービス・ラーニング」であるが、「プレ教育実習」としての性格も持っており、ほぼ全員の学生が履修している。さまざまな学校・園・その他の施設で各種行事手伝いや子どもたちとの自由な遊びを通じた触れ合いを体験するなかで、教職への意識・意欲を強化し、社会的マナーも身につける効果を確実に上げている。

4. 教職支援センター主催の教採対策講座などの取り組み

教職支援センターは、2015年10月よりスタートし、特に力を入れているのが、教員採用試験対策講座である。筆記試験対策とともに、教育委員会事務局や校長・教員としての豊かな経験を有する実務家教員を講師に招いて、論述試験や個人面接・集団面接等の特別講座を繰り返し行っている。そして、本学が毎年3年生を対象に実施している就職合宿の中では教員志望者に対して教職・就職セミナーなど実施しておりこれらのサポートを行っている。なお、学校現場の講師を勤めている卒業生に対して3年間支援をする講座も開設している。こうした取り組みの成果が少しずつ合格実績に現れている。

また、教職・保育士を目指す学生が、採用試験対策として自主的に学習できる場「TCLルーム」を設置し、その管理・運営を行っている。